

11月の生活表

2021年11月

聖マリア幼稚園

年主題：共に喜んで～すべての歩みの中で～

月主題：深める

・保育日数（20日）

月目標：

（3歳）

- ・秋から冬への自然を五感を通して感じながら、神さまからのたくさんの恵みに感謝する。
- ・体験したことを、ごっこ遊びやもの作りなどで再現して楽しむ。
- ・葛藤を感じる場面で、保育者や友だちに思い表し、共感してもらったり、自分で折り合いをつける体験をする。

（4・5歳）

- ・成長させてくださる神さま、実りの時をくださる神さまに感謝する。
- ・自分で感じ想像し工夫し、創ったり表現したりすることを深める。
- ・友だちと心を合わせて、相談したり、アイディアを出し合ったり、思いの違いを調整しながら喜んで遊ぶ。

＜保＞保育者間で聖書を読み、聖歌を歌い、祈り合って、アドヴェントの備えをする。

秋から冬へと移行する季節の移り変わりですが、先日は早くも近畿に「木枯らし1号」が吹いたとのニュースです。残暑の長引きにより「秋」が短くなっているようですね。夏と冬の間の「秋」はとても曖昧な季節ではありますが、その秋こそ、ものを想う大切な季節ですね。さまざまな場面を思うにつけ、特に「命の引き継ぎ」を思います。新しい命への準備の時でもあります。既に体感「初冬」ですが、今しばらく紅葉とともに過ぎゆく秋・「秋晴れ」に想いを馳せたいと思います。そして、存分に秋の夜長の時間を大切にして親子での取り組みをお楽しみ下さい。

11月は「感謝の月」でもあります。当園の「感謝祭」は「全てのことについて感謝しなさい」という聖書の言葉にあります。この全てとは、米の清教徒によって初めての収穫をお祝いした「収穫感謝」。働く人への「勤労感謝」。そして9月の「敬老の日」の命を渡して下さった方々への感謝。さらにその命のバトンを受けた子どもたちの為の「七五三」に当たる「幼児祝福式」を考えての行事です。残念ながら今年も敬老参観にお招きできませんが。この行事を通して、子どもたちに「ありがとう」の意味をしっかりと把握してほしい、神様の被造物としての自然と人間の関係を改めて知る時となって欲しいと願っています。そこには全て「命」があり、命の巡りがあります。それぞれの「こと」の内容をご家庭でも改めて考える、お互いが気づく時となれば大変嬉しく思います。2学期のこの「時」を経験すると子どもたちの心身共の成長は、個人差はあれ目覚ましい伸びを見せることとなります。個々の取り組みが集団の中での「協力」と言う中で更に育まれてくるからです。そしてその協力は取りも直さず神様から授かった「賜物」の一つを表す時でもあります。その賜物を生かして、神様のお一人児の誕生をお祝いする「降誕劇」へと繋がっていきます。私たちを見守り、導いて下さる神様へ想いを馳せ、春への準備の「秋」をお楽しみ下さいね。

《チャプレンコーナー》 11月 月間主題：深める

月聖句：わたしの恵みはあなたに十分である。

(コリント人の信徒への手紙 II 12:9)

キリスト教が世界中に広がったことの、最大の功労者は、パウロでしょう。パウロは、中東の小国であるユダヤの国の片隅で始まったキリスト教を、大帝国の中心であるローマにまで伝え、そこから世界中に広げていったのです。

彼は、ある意味でスーパーマンです。新約聖書の4分の1ほどの文書を一人で記し、数度にわたる宣教旅行でキリスト教を中東からヨーロッパまでの各地に広めました。もともとユダヤ教エリートだっただけに頭も切れ知識も豊富、宗教的实践に富み、それらをフルに使って宣教し、生まれたばかりのキリスト教における教義の基礎を作りました。

けれども彼には、一つの大きな「重荷」がありました。詳しいことは分かりませんが、何か深刻な持病を抱えていたようです。そのために、思うように活動できず、宣教を途中で休止させなければならないことも、しばしばあったようです。その時に聞こえてきた神の言葉が、これでした。「わたしの恵みは、あなたに十分である。」自分の思い通りでない自分、上手くいなくて悔しい自分、自分では納得できない自分が、神様の目から見た時には、十分に恵まれている、ということです。パウロは次の言葉で、この文章を締めくくっています。「わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱い時にこそ強いからです。」

私たちは、願ったことが叶えられず、不満を抱くことが多いです。本当は、もっと、今自分に与えられているものに、感謝すべきなのでしょう。神様は私たちに必要なものを、すべて用意して下さっています。今の自分に感謝する所から始めていきたいと思います

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆ 身近な秋の自然に触れてみましょう。

- ・落ち葉拾い、木の実拾い、山の色の変化等から季節の移り変わりに関心を持ちましょう。
- ・巡る季節の営みに気づき、家族で話し合っ神様の業の不思議を賛美しましょう。

☆ 私たちの為に働いて下さっている人々に感謝しましょう。

- ・身近な人、特に父母の仕事を知り、そのお陰で毎日の営みが成されている事に触れ、感謝の気持ちが持てるように話し合ってみましょう。
- ・折に触れて家族で話し合う中で、様々な職業に関心を持ち、そのお陰で社会が成り立っている事に気づくような機会を得てみましょう。

☆ ご先祖様からの命の繋がりを得て、私達が今在る事を再確認し、感謝しましょう。

- ・子ども達の誕生から今迄の成長に感謝し、更にこれからのお導きに祈りを捧げましょう。

☆ 昼夜の気温の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整を致しましょう。

(ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。)

- ・保護者は上着を持ち帰らず子どもにお預け下さい。

(自分の物である認識=大切にすること たたむ事で整理整頓の良い癖を)

- ・風邪(咳・鼻水・腹痛等)の予防には、帰宅後の手洗いとうがいが必要です。

ご家族みなで、毎日実行してみましょう。

バランスの良い食事・十分な睡眠・朝食の摂取に心がけ抵抗力を養いましょう。

☆ 静かな秋の夜長のひととき、落ち着いてお話や絵本に親しめるように心がけましょう。

- ・子どもが自分で読めても、大人が読んであげることの大切さを知り、時間と場を共有して楽しみましょう。(小学校低学年迄は読んであげましょう。)
- ・大人は、子どものそばで場を共有することにより、成長発達している子ども達を肌で感じとり、その大切な宝物を下さった神様に感謝しましょう。

<クラス便り：各担任より>

<花組>

頬を撫でる秋風が爽やかな朝、朝のご用意を瞬く間に済ませてお庭へと急ぐ子どもたち。しっかりと思い思いに遊び、お片付けを済ませて手洗いをする何か忙しそうな小さな背中、少し汗ばんでいる襟ぐりを触りながら「汗、かいてるね～」と声を掛けると…「だって、いっぱい遊んだから～!」とニッコリ笑顔。今日もそんなに遊べたんだね、良かった!と思います。

小さな手をぱつと開いて五本のお指と同じ数の5人のお友達!と5名でスタートした2021花組さんも、一人…一人と可愛い小花ちゃんをお迎えして片手では足りなくなって。先日、また一人、

小花ちゃんが仲間入り！8名になりました。すぐに終わるスキップつかまえがちょっぴり長く出来るようになり、お歌のお声もより楽しく賑やかになりました。5名の本花さんの子どもたちは、しっかりと小花ちゃんファースト。緑組さん・赤組さんにしてもらうのと同じように振る舞う姿はとても頼もしく、その甲斐甲斐しい姿は何とも愛おしいです。では、小花ちゃんはいつでも何でも一番？？いえ、そうではありません。お隣のpre-preちゃんと朝の自由遊びや午後からの時間を一緒に過ごしたり、お散歩に出掛けたり、そこでも縦の関係があります。先日、一生懸命にマグネットの積み木を丁寧に丁寧に積み重ねお家を作っていた小花ちゃんの所へ、ちょこんとpre-preちゃんのお友達が…次の瞬間、そのお家を一気にガッチャーン！？（あ～～～あちゃ～と先生たち、もちろんpre-preちゃんのお友達に悪気はなくその壊すことが遊びであることは一目瞭然です…）瞬時にその出来事に「〇〇ちゃん、〇〇ちゃんがせっかく作らはったのに～」とpre-preちゃんの先生が側で「ごめんね～」と。しかし、小花ちゃんとはいうと怒るでもなく泣くでもなくお口を尖がらせて、じっと壊れたお家を見つめています。さてどうするかな？助けに行こうかな？と思いながら様子を見てみると、その場から離れることなく、また作り直しはじめました。次の瞬間、その様子を見ていた先生たちが一斉に拍手！「〇〇ちゃん、おにいさんやな～」 「いやいや、おにいさんて、同じお歳やわ！」と、月齢は随分違いますが同い年のお友達です。しかし、小花ちゃんなりにpre-preちゃんがしてしまったことに怒ったり・泣いたりするのは違うということが自然と身についているんだな～と感心しました。もちろん、壊されたことに対して残念な思いや悲しい気持ちはありますので、その思いは共有し、小さなお友達であっても「やめて！」と言って自分の思いを伝えることも大切ですし、我慢することばかりが良いわけではありません。しかし、相手を見て、思い切り怒ってやり合うべきか、泣いて訴えることなのか。「ごめんね」に「いいよ」が言えることなのか。ということを経験から学んでいって欲しいと思います。

幼稚園では「感謝祭」へのご準備が始まります。色んな『ありがとう』に目を向けていきたいと思っています。『ありがとう』という思いや気持ち。身近な『ありがとう』お友達にオモチャを貸してもらって『ありがとう』先生にお帳面を返してもらって『ありがとう』大好きなパン給食をいただきます！『ありがとう』神様に今日も新しい朝をお与えいただいて『ありがとうございませう』毎日の沢山の『ありがとう』何気ない日常の中にある大切な『ありがとう』に気づいて、その『ありがとう』に『ありがとう』が出来るか否は、子どもたちの人格形成の基礎を築く大切な心の根底とも言えます。ご家族からの溢れんばかりの愛情に…感謝。命を繋いで下さったおじいちゃん・おばあちゃんに感謝。今、私たちが【生きている】ことに感謝…生きる為に必要な様々な糧はどうして・どのように・誰が？等々、花組さんの考える力の範囲で沢山の『ありがとう』を分かち合い、みんなで大切に過ごしていきたいと思っています。毎日、神様に『ありがとう』のお祈りが子どもたちと出来ることにまず感謝して。

<赤組>

「せんせーい！ハリネズミのシールがありませーん」赤組のシールお帳面10月のページは「おおきなかぶ」のお話。お芋や栗、かぼちゃなど秋のおいしいもののシールがある中、一番人気はハリネズミシール。大人気すぎて、10月末を目前にして既にハリネズミシールのみ売り切れてしまいました。それぞれこだわりを持って貼っているシールお帳面。「あと4つハリネズミちゃん貼ったら、このページおしまいやあ」と10月ページを見せ合いっこしながら話

していました。そんな10月から、子どもたちに任せたことが2つあります。1つ目は、お部屋にある日付表の日付・曜日・お当番を変えてもらうことです。毎日お帳面にシールを貼り、分級やホールで日付を確認し、意識できるようになってきました。もっと日付に親しめるように、ただ隣へと貼っていくのではなく、より数字を意識してシールを貼れるようにと思いを込めてお願いしました。今までなんとなく貼っていた子も、お友達と協力しながら時には順番に数字を数えながら日付や曜日を変えています。そうすることで随分と曜日の順番も理解し、「月曜日だから絵本返しに行かなくっちゃ」、「今日は水曜日だから花組さんと過ごすよね」と自分達の生活に結び付けて考えられるようになってきました。そして2つ目は、使っていない電気を消すということです。分級が終わりホールへ移動する際に、しっぽのお当番さんにお部屋の電気を消してもらいます。身長も高くなり、少し背伸びをすれば電気のスイッチに手が届くようになったこと、また先日生活素話でお話してもらったSDGsにも繋がることです。子ども達でも地球の為にできること、「これもSDGsだね」と合言葉のように日々励んでいる子ども達。少しでもこうして任されることが増えて、嬉しく、張り切っている赤組さんです。

そのSDGsの1つにある「友達と仲良くしよう」のお約束についても、自分達で考えようとしています。好きなお友達のお隣ばかり、いろんな友達の隣に座ってほしいと、今までは先生が男女の順番になるようにと席替えをすることがありました。しかし最近では分級が始まる前に「ちょっとみんな座ってみて」と1人の子が声をかけて、「男の子、女の子、女の子、女の子!」「あ!ここ男の子に座ってもらわなくっちゃ!」と座れるようになってきました。お当番さんの場所は決まっているので、人数の都合上どうしても男の子が隣になってしまうことがあります。「また男の子、男の子になっちゃった」何度変えても男の子が隣になることに疑問を持った女の子達。「男のほうが多いからちゃう?」と男の子が言い、「そうかあ!じゃあ仕方ないね」と解決。なぜ?と思うことにぶつかり、共に考え、提案や考えを述べ、納得する、そんな関係性、考え方の流れがクラスの中で自然にできていることに驚くとともに成長を感じました。最近は集団としてまとまって遊ぶことも増えてきました。やはり集団が大きくなればなるほど、意見がたくさんあり、自分の気持ちばかりではどうしようもない、そんな葛藤も感じられます。しかし「やめて」「こうしたかった」「じゃあこうしてみる?」と最近は提案する声も聞こえるようになりました。勿論、自分の意見を言うことも大事ですが、友達の気持ちに寄り添う、これは緑組さんやお家のお姉ちゃんお兄ちゃんにしてもらった経験があるからこそだと思います。

運動会終わりから始まった緑組さんの字の練習を見て一年生への準備が始まっている、ということは自分達が緑組になるということだと知った赤組。自分達もその準備を始めなければと、そう思った時から緑組さんを見る目が変わってきました。僕たち私たちも緑組さんになったらこんなことするの? 緑になったら洗い当番さんとかもしなくっちゃな、緑組でジャンピングできるかな?と。ジャンピングのために一足先にお片付けになった緑組に代わり、いつも緑組さんがしているように「あらいうーばん」と役決めじゃんけんを見様見真似でし、洗い当番、納屋当番を進んで担ってくれました。

まだまだ先のことと思ってしまうますが、緑組になるためのカウントダウンが始まっています。緑組になるために、僕たち私たちが頑張らなければいけないこと、頑張りたいことを子ども達と考えながら、まずは任される役が1学期より多くなる感謝祭に向けて、やる気満々の赤組さんと準備していきたいと思います。

<緑組>

文字の練習を始めて現在、10文字前後となりました。始めた当初は「まだ書けない」と不安そうな表情を見せていた子ども達も「今日は何の字?」「あっ〇や!」と文字が分かると、そこから友達とその文字が付く単語探しを始めています。自分の名前や友達の名前にその文字が隠れていることに改めて気が付き嬉しくなり、「えーと…えーと…」と悩みながら見つけ出した単語に笑

顔になることもあります。何気ない「言葉」にスポットを当てる作業。意外と苦勞してはいるものの、「見つける→書く/書けた」が子どもたちの楽しみと自信になり、文字の形を成すようになってきました。この「文字を書く」そして「絵を描く」ことに、実は空間認知の能力が必要だとされています。子どもたちが大好きなレゴブロックや積み木、またパズル・折り紙は、どれも手先の巧緻性を育むだけでなく、子どもたちが想像したモノを平面でも立体的に表現する力、すなわち空間認知能力を自ずと育てています。先日、園長先生のブログ（10/20付）に座標の話を取り上げていただきましたが、平面上で自分の位置を理解することは地図を読むことに似ていますね。自分の場所を俯瞰して地図上に見出すことができるかどうか？人やモノの場所を頭の中の地図を広げてみたら…子どもたちはどんな風に見えているのでしょうか？総じて、ブロックも積み木も折り紙もパズルも好きで、その創造性に大人は舌を巻くことがよくあります。自由な発想で創りあげられる数々の子どもたちの大作に感心しつつ、更にその能力を高めるうえで大切なことは意識的な大人による言葉掛けであり、言葉遣いです。上下・左右差を理解しているか？大きさを理解して、モノを積む、詰める、片づける（なんでも放りこんで片付けOKではないということ）ことを意識して取り組めるか？など具体的にモノの大きさや方向を示す言葉掛けを意識してみてください。お子さんの育ちに目を向けてみることで「わかっている、知っている」と普段の様子から思っていた大人が「え？なんでわからないの？知らなかったの？」と驚くことがあるかもしれませんよ。また、園庭では子どもたちが大好きな鬼ごっこや、警泥が毎日のように繰り広げられています。「逃げる・追いかける」の関係性の中で相手との距離感を測り、同じように遊具や他の動く人やモノとの位置関係を瞬時に理解して走りまわる。これも空間認知能力の一つです。お庭が広ければ、ぶつからないという問題ではなく、子どもたちはその空間において対物との関係を読み、注意力を高めて遊んでいます。見ていてひやひやする場面も勿論ありますが、意外と園庭での対物によるケガや事故は少ないのです。逆に考えると、広い空間では、対物との距離の保ち方に余裕があり、注意が必要になることもあります。自分以外の人やモノとの間隔に「大丈夫！」と過信し、人やモノの回避が難しくなる、飛び出し行為や事故に遭うことだって考えられます。「思い切り」の意味を履き違えないように注意が必要です。

早いもので11月ですね。11月は「感謝祭」です。敬老感謝・収穫感謝・勤労感謝、また子どもたちの成長を感謝する幼児祝福式もあります。先日から「宿題！宿題！」と子どもたちがお家の方の「仕事」について尋ねることがあったかと思います。急に何を聞いてくるのか？と疑問に思われたかもしれませんが、これも「感謝祭」（＝勤労感謝）につながる教育の一環です。内科健診においでくださった園医さんの「落合先生」は何のお仕事をされているのか？と問うたところ、「お医者さん」となかなか出てきませんでした。今の世の中、多種多様な職種があり、子どもも大人も一目瞭然とは行きませんが、私たちの日常を守るあらゆる人々へ目を向ける、自分の生活の成り立ちに目を向ける、そのためにまずは、自分のお家の方がどんな仕事をされているのかに目を向けました。子どもたちに幼稚園から投げかける「色々」は、保護者の方をも巻き込んで考えていただくことが「たくさん」あると思います。そんなときは、是非子どもたちの目線にあった言葉で、話をしてあげてください。半年後に迫った就学。今の環境とは異なる環境に身を置く子どもたち。楽しい、興味のあることだけでなく、約束を守る・時間を守る・ものを大切にする（管理する）など、生活のなかでの「けじめ」を意識していかなければなりません。